

中学校障害児学級卒業生の自立を支援する生涯学習の研究

—生涯学習教室の実施と考察—

船津 守久 黒瀬 基郎 今崎 英明 若松 昭彦
 荒森 紀行 鬼木 智子 国元 育子 奥野 正二

1 はじめに

附属東雲中学校障害児学級の卒業生は、「東雲青年学級」を組織し、その保護者や中学校教員らの支援を受けながら自主的な行事を企画し、月1回定例的に活動している。現在その内容は主にレクリエーションや親睦であり、いわゆる学習の場としての色合いは薄い。彼らの多くは学齢を終え、何らかの形で社会に出、生活している。その中で、改めて勉学の必要性を感じながらも、そういった場は非常に少なく、社会は彼らのニーズには応えることができていない。

知的に障害をもち、知識・技能の習得により長い時間を必要とする彼らにこそ、社会に出た後の学習の場を保障する必要があるのではないかとこの考えのもと、東雲青年学級において自立を目標とした知識・技能の習得や一般教養的内容をもつ行事を行い、その効果を検証する。

2 東雲生涯学習教室開設の経緯

前項にも記したように、東雲青年学級では、毎月1回の活動を実施している。本年度の活動は次の通りであった(表1. 一部予定を含む)。

この表からわかるとおり、学習的行事は9月に実施された料理教室のみである。昨年度、青年学級にも学習的行事として「勉強会」を開いてほしいという声が学級生の間から上がり、「料理教室」を実施した(伊藤ら, 2004)。その結果彼らの自立を支援する生涯学習には次のような事が必要であることが明らかになった。

- (1) 生活の基礎・基本となる力の育成
- (2) 反復・継続的な学習の場
- (3) 学習で身につけた力を発揮できる機会の保障
- (4) 適切な支援

筆者らは料理教室のような単発的なものとは別に継

表1 東雲青年学級平成16年度年間行事

月	内 容	備 考
4	新入生を迎える会	
5	ハイキング(宮島)	広島駅集合
6	合同運動会	
7	プール・ビアガーデン	中学校プール
8	中学3年生と語る会	
9	勉強会(料理教室)	
10	旅行	愛媛・西海
11	忘年会	
12	クリスマス会	
1	もちつき	
2	ボウリング	
3	1年間のまとめ	

続的な学習の場も設定して青年学級生の要望に応え、彼らの自立を強く支援していける方法を考えていたが、学級生の声の高まりを受けて週1回の学習教室を開くことを決めた。場所は、中学校教員である筆者らが支援を行いやすい東雲中学校とし、教室は青年学級生が毎月の活動場所として使用していて集いやすい3年3組教室をあてることとした。

日時については、休日を望む声もあったが、既に月1回の行事が組まれているので、毎週火曜日の午後6時30分から1時間程度をあてることにした。この時間帯は、支援者の所属する中学校の放課後で、加えて参加する学級生がそれぞれに仕事を終えてから集まり、終了後もあまり遅くならずに帰宅できるように設定した。

おおむね以上のことを決定した後、青年学級生のうち現在青年学級行事の案内を毎月送付している204名に学級開設をはがきで通知した(図1)。

Morihisa Funatsu, Motoo Kurose, Hideaki Imasaki, Akihiko Wakamatsu, Noriyuki Aramori, Tomoko Oniki, Ikuko Kunimoto, Masatsugu Okuno: Research of the lifelong learning which supports independence of a junior high school special class graduates - Enforcement and consideration of a lifelong-integrated-learning classroom

青年学級のみなさんへ

月 日

勉強会のお知らせ

夏の終わりに暑い日が続きましたが、みなさん元気ですか。

さて、青年学級では、いろいろな行事や、レクリエーションを行って、みんなで楽しく活動していますが、学級生の中から、もっと勉強したい、いろいろなことを習いたい、相談もしたい、という声があがっていました。

そこで、毎週火曜日に、勉強会を開くことにしました。会場は、東雲中学校です。内容については、いろいろな希望や必要なことがあると思うので、第1回目は参加を希望する人に集まってもらい、一人ひとり話をしながら、くわしいことを決めていきたいと思います。

仕事や生活の中でもっと勉強してみたいことや、身につけたいことがある人、毎週がんばって続けてみようと思っている人は、9月9日(火)18時30分までに、東雲中学校(3年3組)に集まって下さい。

図1 東雲生涯学習教室開催の通知はがき

3 経過

第1回目の9月9日には、9名の学級生が集まった。内訳は表2の通りである。

案内はがきにあるとおり、第1回目に学級生にアンケート調査を実施し、希望する学習内容を尋ねた(表3 ただし表にはその後7回目までに新たに参加した2名の結果を含む)。表中国語の内容はすべて漢字であり、数学には算数と表現されたものも含む。その他に含まれる内容は、絵、スポーツ、英語、カラオケ、日本史である。

この結果から国語(漢字)および数学(算数)の内容を中心に学習することにした。パソコンの希望も多くあったが、基礎となる漢字や数学的知識の習得がまず必要であると考え、当面見送る事にした。

開催する曜日と時間および場所については当初の予定どおり毎週火曜日の午後6時30分から7時30分まで、東雲中学校3年3組(障害児学級教室)とした。

支援には今崎と荒森を中心に東雲中学校障害児学級(3組)担任の鬼木、国元、奥野が随時あたった。

支援の内容は、授業の形態はとらず各自の自習を原則とし、必要に応じて随時個別に支援を行うこととした。ただし10回目までは、主に漢字のプリントを支援者が用意し、全員に取り組みさせた。その後D社の小学

表2 第1回出席者内訳

Table with 10 columns: 卒業回, 21, 22, 24, 26, 29, 32, 33, 34, 計. Rows: 男性, 女性, 計.

表3 アンケートによる希望内容

Table with 5 columns: 国語, 数学, パソコン, その他. Rows: 女性, 男性, 全体.

*回答者は11名。複数回答。

校学年別算数・国語ドリルを使用する事にし、まず1年生のさんすう・こくごドリルを全員に購入させた。その後学級生から、「自分にどのくらい力がついたか知りたいのでテストを行ってほしい」との声が上がり、14回目に当たる平成16年1月20日に、3か月に1回(3, 6, 9, 12月)実力テストを行う事を決定した。17年1月までに16年3月16日, 6月29日, 10月5日, 12月7日の4回行った。

教室開設1年を経過した平成16年9月、参加者から「(社会生活の)マナー・ルールを勉強したい」との声が上がったので、参加者と支援者で話し合いをし、時間の終わり10分程度をマナー(ルールを含む)学習の時間に充てることとした。これも授業の形態はとらず、参加者が普段の生活の中でよい(悪い)と思ったり、疑問に思ったりしたことを発表し、それを元にして支援者が話をするという形式にした。

4 結果

1) 意識

(1) 参加状況(出席率)

第1回目の出席者は9名であったが、その後増加し平成16年12月を終了した時点で1度でも教室に出席したことのある参加者は14名であった。全員のプロフィールを表4に示す。表中「レベル」とは、最も新しい実力テストを元に、国語・数学の実力をそれぞれ4段階に分け、2教科の個人内差を加味してさらに6段階に分けたものである。数字が大きいほど進度が高いことを示す。

1年目すべての回(計22回)と2年目の第21回(12月14日)までを対象として、各参加者の出席率(出席日数÷出席基準日数)を求めた(表5)。第2回目以降からの参加者については、初参加回以降が基準日数である。

(2) アンケート調査

表4 参加者プロフィール

No.	性別	卒業回 (年齢)	所属	レベル
1	女	24 (30)	支援施設	2
2	男	32 (22)	作業所	2
3	男	29 (25)	作業所	2
4	女	25 (29)	企業	2
5	女	21 (33)	支援施設	4
6	女	34 (20)	支援施設	5
7	男	26 (28)	企業	5
8	男	22 (32)	企業	6
9	女	33 (21)	作業所	3
10	男	24 (30)	企業	4
11	女	32 (22)	作業所	1
12	男	34 (20)	作業所	1
13	男	35 (19)	作業所	1
14	男	34 (20)	作業所	1

※年齢は平成16年4月現在

表5 参加者別出席率

No.	出席日数	基準日数	出席率
1	36	43	83.7
2	40	43	93.0
3	30	43	69.8
4	38	43	88.4
5	40	43	93.0
6	41	43	95.3
7	43	43	100.0
8	42	43	97.7
9	42	43	97.7
10	40	43	93.0
11	9	37	24.3
12	7	15	46.7
13	3	23	13.0
14	2	23	8.7

参加者の意識について2回のアンケート調査(図2)を実施した。1回目は初年度の終わりの平成16年3月2日、2回目は平成16年12月14日である。

回答数は1回目10、2回目11であった。

質問項目のうち、「3. 学習会に、来てよかったと思いますか。」「4. それは、どうしてですか、理由を書いて下さい。」「6. 教室で勉強したことが、生活の中で役に立ったことがありましたか。」「7. これから先、東雲生涯学習教室を続けて、勉強したいですか。」の4項目についての結果を述べる。

①項目3 (表6)

東雲生涯学習教室(学習会)についてのアンケート

このアンケートは、みなさんが東雲生涯学習教室でどのように勉強して、どのように感じているかを調べ、これからの学習教室を、よりよくしていくために行うものです。よく読んで、答えて下さい。みなさんの思いや希望に、全部答えることはできないかも知れませんが、思ったり感じたりしているとおりに答えて下さい。(○をつける)

1. 東雲学習教室(学習会)では、どんな問題集で、どこ(何ページ)まで勉強しましたか。

例) 学研の国語2年生で、47ページまで

2. 学習会に、行ってきましたか。

ア、全部来た イ、ほとんど来た ウ、あまり来なかった エ、ほとんど来なかった

3. 学習会に、来てよかったと思いますか。

ア、とてもよかった イ、少しよかった ウ、あまりよくなかった エ、全然よくなかった

4. それは、どうしてですか。理由を書いて下さい。

5. 東雲生涯学習教室は、毎週火曜日の、6:30から7:30くらいに行っています。この時間は、どうですか

ア、ちょうどよい イ、早い(もっと遅く) ウ、遅い(もっと早く)

5-1. 早い、または遅い、と答えた人は、何分くらい違ったらちょうどよいですか。

6. 教室で勉強したことが、生活の中で役に立ったことがありましたか。

ア、あった イ、なかった

6-1. 役に立ったことがあった人、それはどんなときの、どんなことですか。

役に立ったときのこと

7. これから先、東雲生涯学習教室を続けて、勉強したいですか。

ア、続けたい イ、続けたくない

7-1. どのような学習会だったら、続けたいですか。

7-2. 自分にとって、もっとよい学習会にするために、希望することは何ですか。

質問は、これでおわりです。

ありがとうございました。

最後に、あなたのことを教えてください。

卒業回数 回 年齢 歳 性別 男 女

名前

図2 アンケート用紙

表6 項目3, 4の結果

個人No.	第1回目 (16.3)		第2回目 (16.12)	
	3	4	3	4
1	ア	じつりょくをつけたい。もう一度勉強をやってみたいと思った。	ア	友達同士やまわりの人達を知っている人ばかりだから会話もできるし、楽しく勉強を習うことができます。
2		(記入なし)	ア	べんきょうが楽しかった
3		(記入なし)	ア	(記入なし)
4	ア	一人であることがないからです。	ア	気分転かんになったこと！勉強して、はっとした時に漢字が思い出した
5	ア	計算をしたいから	ア	勉強してよかった。
6	ア	ない	ア	いい勉強になりました。勉強して楽しいです。
7	ア	計算きの数がとてもよかったです。	ア	友達にいました
8	ア	計算力を身につけたいから。漢字を覚えるため。	ア	辞書でわからない漢字が調べられる。
9	ア	学校を卒業してべんきょうする時がないからです	ア	かんじのべんきょうができたりにがてなさんすうがすこしできたのでうれいします。
10	ア	べんきょうになるから	ア	ストレスかいしょうになるから
12			ア	たのしかった

表7 項目6の結果

個人No.	第1回目 (16.3)		第2回目 (16.12)	
	6	6-1	6	6-1
1	ア	作業するときに、納品書を書くときに使ってみました。	イ	ない
2		(記入なし)	イ	(記入なし)
3		(記入なし)	ア	(記入なし)
4	ア	仕事で計算が少しできるようになった。	イ	(記入なし)
5	ア	(記入なし)	ア	仕事で役に立った
6	ア	ない	ア	ありません。
7	ア	算数のドリルのたし算とひき算をする。国語の3年生のドリルを買う。	ア	仕事のこと
8	ア	算数のたし算ひき算でひっ算を使ったこと	ア	店の漢字が読めることです。家ではせんたくのやり方を覚えた。よんでわかった。算数で表グラフで月の問題で役に立った。
9	ア	漢字をすこしわすれたからです	ア	わからないかんじがかけたことです。
10	ア	かん字をすこしずつおぼえた	ア	みのまわりの事ができるようになった
12			ア	しごとをがんばる

1回目は回答数10のうち8名が「ア(とてもよかった)」を選択し、残りの2名は空欄であった。

2回目は解答数11全てが「ア(とてもよかった)」を選択した。

表8 項目7の結果

個人No.	第1回目 (16.3)		第2回目 (16.12)	
	7	7-2	7	7-2
1	ア	漢字練習、ベンしゅう字など。数学国語、プリントなど。ドリル。	ア	なし
2			ア	つづけてがんばりたいです。
3			ア	がんばってきます
4	ア	①数学 ②国語	ア	
5			ア	
6	ア	国語 英語など	ア	国語をたくさんかんじをおぼえるようにしたい。算数をもっとおぼえるようにしたい。英語もチャレンジしたいです。
7	ア	むずかしくても だいじょうぶです。		国語
8	ア	むずかしい漢字を少しずつ覚える	ア	英語の単語をべんきょうをしたい。日本史の勉強をしたい。
9	ア	①国語(かんじ)	ア	
10	ア	算数、国語をもっとべんきょうしたい	ア	いまは国語とすうがくをがんばりたい
11				ありません

②項目4(表6)

項目3の理由を尋ねたものである。

③項目6(表7)

6の選択肢「ア」は役に立ったことが、「あった」。「イ」は、「なかった」である。項目6-1は「役に立ったときのこと」の自由記述である。第1回目では回答数10のうち「ア」が8、後の2は記入なしであった。

④項目7(表8)

選択肢「ア」は、生涯学習教室を「続けたい」、「イ」は「続けたくない」である。項目7-2は「自分にとって、もっとよい学習会にするために、希望することは何ですか。」で、自由記述である。第1回目は回答数10のうち「ア」が7、後の3は記入なしであった。第2回目は回答数11のうち「ア」が9、後の2は記入なしであった。

2) 学習の効果

3ヶ月ごとの実力テストは、各回各参加者の学習進度によって3(または4)種類の範囲から出題している。したがってある範囲から出題された問題を解答するメンバーは毎回変わるもので、単純に比較することはできないが、得点の変化を追ってみる(表9)。

表の下部に各回の問題ランクA, B, Cの出題範囲範囲(対象にした問題集の学年とページ)を示した。各回の出題範囲は、各参加者の自己申告した学習範囲によるので、順当にすすんでいない場合や、問題に未

表9-1 実力テストの得点（国語）

		国語							
		16.3.16		16.6.29		16.10.5		16.12.7	
個人No.		ランク	得点	ランク	得点	ランク	得点	ランク	得点
1		A	100	A	91	A	97	A	86
2		A	63	A	35	A	25	A	54
3		A	12	A	62	A	97	A	96
4		A	100	A	88	A	84	A	87
5		A	29	B	29	B	70	B	86
6		B	91	C	78	C	58	C	68
7		A	93	C	73	C	39	C	69
8		B	100	C	98	C	99	C	100
9		A	100	A	93	B	88	B	97
10		B	53	B	76	B	72	B	87
12				A	10			A	0

範囲	A	1-25	1-全	1-全	1-全
B		2-全	2-全	2-全	2-全
C			3-全	4-全	4-全

表9-2 実力テストの得点（数学）

		数学							
		16.3.16		16.6.29		16.10.5		16.12.7	
個人No.		ランク	得点	ランク	得点	ランク	得点	ランク	得点
1		A	96			A	41	A	64
2		A	90	A	97	A	82	A	62
3		A	92	A	60			A	71
4		A	92	B	86	A	71	A	90
5		A	68	B	69	B	77	B	31
6		B	43	C	4	B	47	B	29
7		B	31	B	80	B	24	B	2
8		B	100	C	100	C	74	C	94
9		A	59	A	99	A	30	A	46
10		A	100	B	98	B	100	B	82
12				A	0			X	100

範囲	A	1-25	1-37	1-全	1-全
B		2-全	2-20	2-全	2-全
C			3-30	4-全	4-全

学習部分が含まれる場合もあった。

表の空欄は当日欠席のためテストを受けていないことを示す。なお、テストはすべて100点満点である。

3) 態度

支援者らから見た教室の参加者はみなすすんで学習する態度を有して見える。いくらかでも客観的な視点から見た彼らの態度を示すものとして、12月に発行さ

生涯学習教室実力テスト国語得点変化

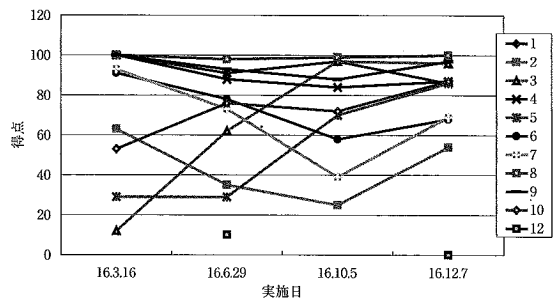


図3-1 実力テスト（国語）得点変化

生涯学習教室実力テスト数学得点変化

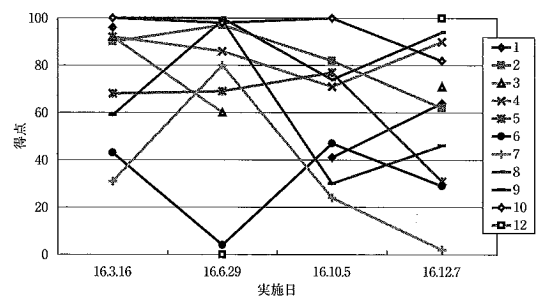


図3-2 実力テスト（数学）得点変化

れた附属東雲中学校PTA機関紙「東雲」に掲載された記事を転載する。

「火曜日の放課後から」

毎週火曜日の放課後6時30分から7時30分の間、開かれている教室をご存じでしょうか？

それは昨年9月9日から始まった3組卒業生11名（年齢二十代から三十代）の方々の自習を中心とした生涯学習教室です。毎月第三日曜日に行われている青年学級から派生した学習教室で、ボランティアで副校長先生と荒森先生が、ご指導にあたってくださっています。

「東雲生涯学習教室を通して」

文化部（署名）

先般、昨年度より開始された、東雲生涯学習教室を参観させて頂き、参加者の方々や、先生方の真剣な学習に対する姿勢に触れ、大きな感銘を受けました。

今回は、秋雨の降りしきる中、手に手にかさと鞆を持った参加者達が足早に教室に集い、真剣な面持ちで授業に取り組む姿をご紹介します。

生涯学習教室の始まりは、参加者と先生方でその日のテーマを決め、何について学ぶかを全員で確認した

後に、おのおのが持ち寄った学習資料を自主的に勉強し、自己学習の大切さと皆で決めたテーマを共有して考える学習方法で学習する事の大切さを再認識する事が出来るような内容となっていました。

参加者の方々は三組卒業生の方々に、皆さんそれぞれの職場で日々仕事をしながら今回の生涯学習教室で勉強を続けていきたいと思われる、意欲あふれる方々ばかりです。

自己学習ではそれぞれの持ち寄った学習資料を基に、分からない事や困難な問題と真剣に取り組み、先生方への質問も積極的に行い、純粋に勉強を続けたい気持ちが強く現れ、活気溢れる授業内容です。

自己学習の後、最初に皆で取り決めた学習テーマについて討論を行い、参加者の学びたい事柄を全員で勉強し、生涯学習の意欲向上を図っています。

今回のテーマは「時間のマナー」に関して学ぶ事となり、例えば待ち合わせの時間に遅れてしまった場合や、相手を待たせた場合などにどのように対処すべきか、相手の事を考えた行動を行う事の大切さと云った、社会生活上での基本的なルールとマナーをそれぞれが認識する事の大切さを学び、本日の教室は終了致しました。

今回の参加者達の真剣な取り組み姿勢を観る中で、生涯学習の大切さを実感できた教室でした。

5 考察

1) 意識について

参加者の学習に対する意識は全体的には非常に高く、それは出席率やアンケート結果にも表れている。しかし出席率を見ると一部に低い数字が見える。このちがいを検証するために、条件別に出席率を比較して

表10 条件別出席率

条件		人数	出席日数	基準日数	出席率
性別	男性	8	207	276	75.0%
	女性	6	206	251	82.1%
卒業回	21～25回	5	196	214	91.6%
	26～30回	2	73	86	84.9%
	31～35回	7	144	227	63.4%
所属	企業	4	163	171	95.3%
	作業所	7	133	227	58.6%
	支援施設	3	117	129	90.7%
レベル	5・6	3	126	129	97.7%
	3・4	3	122	129	94.6%
	2	4	144	171	84.2%
	1	4	21	98	21.4%

※初参加日以降の日数を基準日数とした

みた(表10)。

表10は4つの条件別に出席率を算出したものである。最も数字が低く他の項目と差があるのは、レベル1の出席率であった。レベルの分類基準は、4回目の実力テストのレベルを4つに分類したものである。毎回小学校1年以上の範囲から出題したレベルをA～C、入門期レベルをXとしたうえで、国語・数学の2教科でCCとなるものを6、BCとなるものを5、BBとなるものを4、ABとなるものを3、AAとなるものを2、AXおよびXXとなるものを1とした。したがって数字が大きくなるほど高い学年の学習範囲であることを示す。レベル1に属する4人がすべて31～35回生でかつ作業所に通っていること、4人のうち3人が男性であることから、この三つの項目の出席率が低めになっているが、第一の要因はレベルであると考えてよいであろう。

これは、教室での学習方法が関係しているかもしれない。各自の自習を原則としているので、つねに誰かとのやりとりを必要とする入門期の学習には向いていない。特にまだ文字を十分に読みこなせない場合、自分で問題を読んで次々解いていく事は難しい。

これ以外にも注目すべき要因がある。それは、アンケートの項目4に表されている(表6)。これは、学習会に来てよかったと思う理由の自由記述であるが、第2回目の記述の内容を見ると、A:学習の効果に関すること、B:(学習が)楽しいということ、C:「友だち」に関すること、D:気分転換またはストレス(解消)に関すること、が含まれる。それぞれの記述を分類してみると、最多はAの5件、2番目はBの4件で学習に関する内容が多く述べられているが、C・Dもそれぞれ2件ずつあり、親しい者どうし顔を合わせ、あるいはしゃべり合ってリラックスできる場として活用されている面があることがわかる。この側面から見ると、出席率の低い4名はいずれも言語面にいくらかの難しさをもち、比較的年齢の低いこともあって現時点では他のメンバーとの親密度は低く、CやDの内容について満足を得るには至っていないように見える。また第1回目の記述にはC・Dとも見られず、学習に対する意欲から参加したが、参加を継続することに対しては親しい者どうしで会い、しゃべることのできる場であるということが動因の一つになっている。

次に学習した内容が生活の中で役に立ったかという問いについてはほとんどが「あった」という回答であるが、「なかった」が全21回答中3あり、それがすべて2回目の回答であった。この3名のうち2名は1回目「あり」と答え、「納品書を書くときに(漢字を)

使ってみました」「仕事で計算がすこしできるようになった」と記述していた。この2名は2回目の項目4の記述で「友だち」「気分転換」という内容を記述しているので、2回目の時点では学習の結果よりもそういった内容に意識が向いていたのではないかと考えられる。注目させられるのは8番の記述で、「店の漢字が読める」「選択のやり方を（説明書を読んで）覚えた」とあり、積極的に生活に生かしている。10番の「身のまわりのことができるようになった」という記述も具体的ではないが、教室で得た力を強く意識している。他にも「わからない漢字が書けた」という具体的な事をあげた者もあり、今後どのように変化しどの

ような回答に表されるのか興味深い。

教室での学習を続けたいかどうかについてもほとんどの回答が「続けたい」で無回答はあるが「続けたくない」の回答はなかった。教室の持ち方などについての改善点を尋ねた「自分にとって、もっとよい学習会にするために、希望することは何ですか」という設問は回答が難しかったようで、意図した内容の回答は得られなかった。しかし、英語や日本史といった内容を希望する記述があり、開始時点でのアンケート結果と合わせて自分の興味のある分野を教えてもらえる場を望む気持ちがうかがえる。

2) 学習の効果

4回の実力テストのうち、少なくとも3回のテストを受けた者を対象にその変化を検討した。

4回の実力テストの得点変化からは、二つの教科の結果を変化の傾向から3または2のグループに分けることができる。

国語では上昇・安定・不安定の3グループ(図4-1)、数学では安定・不安定の2グループ(図4-2)である。

国語に比べて数学(内容的には小学校の「算数」であるが)は内容が多岐にわたるので、例えば計算は得意でも図形は苦手、という場合があり得る。全体的に得点の上下が激しいのはそのためではないかと考え

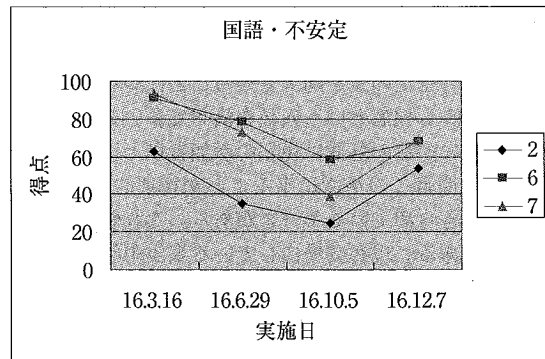
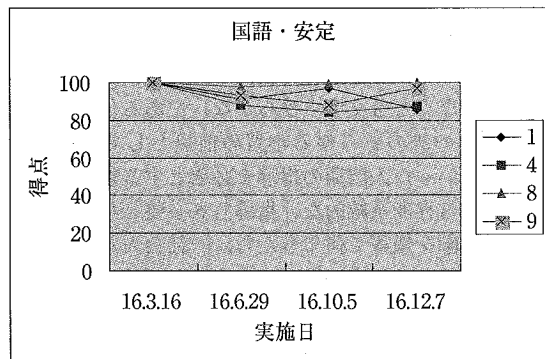
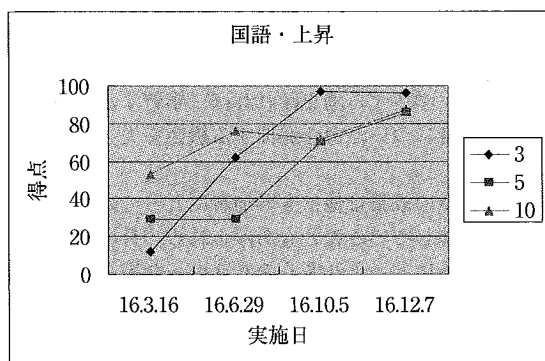


図4-1 実力テスト・国語の3グループ

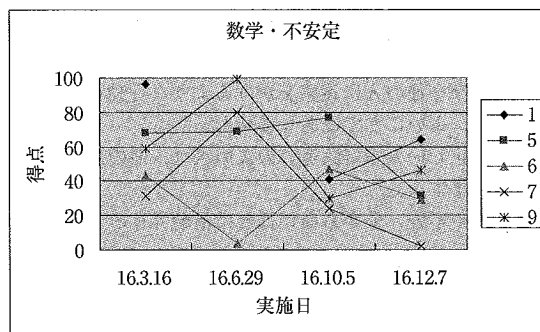
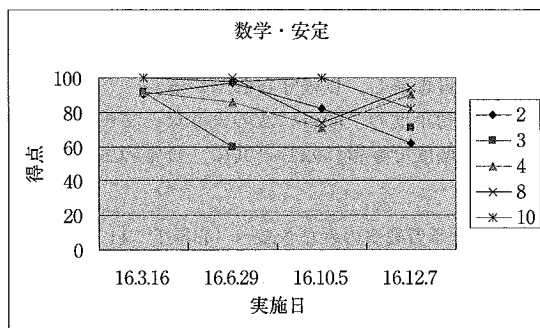


図4-2 実力テスト・数学の2グループ

る。

その中で3・4・8・10番は両教科とも上昇または安定に入っており、確実に力をつけているようである。一方6・7番は両教科とも不安定で、学習に何らかの問題をもっているように見えるが、国語については3回目から4回目にかけて上昇しているので今後の様子に注目したい。しかし数学については非常に上下が激しく、詳しく原因を探る必要がある。

表9-2を見ると、6番の2回目のテストのみランクがCで、このときの得点は4点であった。これを除けば得点は高くはないものの、安定しており、それなりの結果は得られているようである。7番についてはこれらのデータからは原因はよくわからない。回答を元にさらに検討する必要がある。

3) 態度

前掲した「東雲」の記事はある1日の状態だけを表した記述であるが、開始以来参加者の学習に臨む態度は非常に良好であるといつて差し支えない。

例えば学校での授業において問題とすべき行動は見られず、若干の私語がある程度である。ただし次の2点はある時点で見られたので禁止した。

一つは学習時間内の携帯電話で、学習中は電源を切るか、マナーモードで音が鳴らないようにすることを指示した。もう一つは入室後の食事である。全員仕事を終えてやって来るので時間的に空腹になることは理解できるので開始時間(18:30)以前であればよしとしたが、それ以後の学習時間内の飲食は禁止した。いずれも全員理解し、以後守られている。

なお、初年度の7回目に次のような一文を配りきちんとした態度で学習に臨むと共に、日常生活にも自

東雲生涯学習教室のみなさんへ(心得I:11/11)

※一日の計画を立てて、規則正しい生活することは大切なことです。
※時間を守って、一生懸命作業したり、働くことはとても大切なことです。
※夜遊びや他の人に迷惑をかけるような行動をとることは、よいことではありません。
※礼儀正しい人や言葉遣いのよい人は、他の人から愛されます。
※悩みや不安、分からないことは信頼できる人に相談しましょう。
※読み書きや計算、道徳の勉強もしっかりして、立派な社会人になりましょう。

図5 配布した文

ら気を配り自らを向上していけるよう伝えている。

6 結語～成果と課題

開始から1年4ヶ月を経た「東雲生涯学習教室」をいくつかのデータを元に検討した。実質会員数200人以上の東雲青年学級の中からこの教室に参加しているのは14名である。この人数を多いと見るか少ないと見るかで教室の価値は変わってくるのかもしれないが、そのうちの多くがほとんど欠席せず継続して参加していることが最大の成果である。見方を変えれば、それだけの意欲をもちながら、これまでこういった学習の場を彼らはもつことができなかったということでもある。ある参加者の保護者によると、彼は中学校から養護学校に進み卒業するまではひらがなやカタカナはもちろん簡単な漢字までも書くことができていたにもかかわらず、その後数年で文字が書けなくなっていたそうである。学習する場を離れれば、学習する、あるいは学習し身についた力を発揮する機会を失ってしまうのである。

この教室の成果は他にも参加者にとっての癒しの場として機能していることもあげられる。月に一度の青年学級以外にも、より多くのそういった場が、彼らには必要なかもしれない。

課題はといえば出席率の芳しくないメンバーについては彼らを時間内にある程度集中して支援できるスタッフが必要である。またそうなった場合、今のような自習中心の方法を部分的に変える必要もあるかもしれない。少なくとも文字(ひらがな)をある程度読めることはその後のあらゆる学習の前提として必要である。そういった入門期の指導を必要とする参加者に対してはある程度系統的な「指導」も必要となろう。

既に学齢を過ぎて何年もたち、一社会人として生活している彼らであるが、このようなきちんとした学習の場と時間があり、ある程度の支援があればまだまだ知識を増やし、能力を高めていくことができることができるのである。そしてそれらを仕事に、また家庭生活に生かし、人間関係を豊かにしていつ、ひいては自分自身の生活の質を向上させることにつながる。

実は我々も14名という人数を決して多いと思っていない。現に学習の意欲は現在の参加者以上にもちながらこの時間帯この場所に来ることが物理的に難しく、参加をあきらめているケースがある。これがこの教室の課題である。現在会場にしている東雲中学校は地域的には交通の便利などところではない。ただ彼らが通い慣れている、心理的に通いやすいというだけである。もしも駅やバスセンターの近くにあればより多くの参加があるはずである。また時間も半分は支援者の都合

で決められたものである。休日（特に日曜日）の昼間であればさらに多くの参加があるだろうし安全の面からもその方が望ましい。

現在の参加者も実はそれを望んでいる。これを解決するには新たな支援者を得てより便利な場所を探し、自分たちに最も都合のよい時間帯で行うことが必要である。それはある意味可能なことである。筆者らは「東雲生涯学習教室」は可能な限り継続していくつもりであるが、よりよい学習の機会が生まれることも願っている。彼らにはそれを求めて自分たちで動くよう

に伝えている。彼らがそうやって動き始めたとき、それがこの取り組みのより大きな成果となるであろう。

参考文献

伊藤圭子，黒瀬基郎，船津守久，若松昭彦，荒森紀行，国元育子，奥野正二，泉本聖子 中学校障害児学級卒業生の自立を支援する生涯学習の研究—料理教室の実施とその効用— 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要第32号. 2004. pp. 389-394